

# ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区地域活性化方針

平成23年12月22日  
内閣総理大臣決定

## 1. 地域の活性化に関する目標及びその達成のために取り組むべき政策課題

### (1) 総合特区により実現を図る目標

県民が豊かな暮らしを続けていくためには、県内の産業が成長を維持し、雇用の場が確保されることが必須である。とりわけ、水島コンビナートは、県の製造品出荷額等の半分を占めるなど、岡山県産業の中核をなしており、コンビナートの持続的発展が岡山県の活力維持と雇用の確保に不可欠となっている。

このため、①高度な企業間連携による高効率・省資源型コンビナートの構築、②港のポテンシャルを最大限発揮させる物流機能の強化、③今後のコンビナートの持続的発展に繋がる成長産業の国内重要製造拠点（マザー工場）化を進めることにより、アジア有数の競争力を持った国内コンビナートの模範となる「モデルコンビナート」を実現し、企業の海外流出による我が国の産業空洞化を防ぐとともに、岡山県の持続的な成長と県内での良質な雇用の確保を図ることを目標とする。

### (2) 国と地方で共有する包括的・戦略的な政策課題

#### ① 高効率・省資源型コンビナートの構築

中東や東アジアにおける新鋭コンビナートの生産本格化、内需の減少、円高による輸出品の価格競争力低下などにより、操業停止するプラントが出てくるなど、水島コンビナートはかつてない厳しい環境に置かれている。

産業空洞化を防ぎ、新興国の成長市場を獲得していくためには、当該コンビナートのユーティリティ施設をはじめとしたビジネスインフラを他国のコンビナートと比べて遜色のない水準に整備し、競争力を強化する必要がある。

#### ② 水島港の物流機能強化

瀬戸内海に面した水島港は、外洋に面した港に比べ船舶の航行や停泊に対する制約が多く、原燃料の入荷や製品出荷に係るコストが割高になるため輸送効率の改善が必要である。

水島港の国際拠点港湾及び国際バルク戦略港湾としての高い機能を水島コンビ

ナート企業が最大限活用できる環境を整備することが必要である。

### ③ コンビナートの持続的発展

新興国との競争により汎用品等では廃止するプラントが発生する中で、引き続き水島地域が活力を維持していくために、水島コンビナート企業が次世代電池材料や電気自動車をはじめとした製造拠点としての集積を活かし、今後の成長が期待される環境・エネルギー関連の成長産業分野にタイムリーに事業展開できるような環境整備を行うことにより、西日本最大の素材供給拠点であるコンビナートの集積を維持発展させることが必要である。

## 2. 目標を達成するために指定地方公共団体が実施し又はその実施を促進しようとする事業に関する基本的事項

### (1) 解決策

#### ① 高効率・省資源型コンビナートの構築

自然災害が少なく、国内随一の多様な企業がコンパクトに近接立地している本地域において、コンビナート全体を一つの企業（バーチャル・ワン・カンパニー）と見なすことにより、効率的に原材料等を融通するなど、企業間の高度な連携を実現するための環境整備を図り、投入する原料・エネルギーを最小化し、高付加価値な製品のアウトプットが可能な、高効率で生産性の高いコンビナートが形成され、水島地域のさらなる成長が可能となる。

#### ② 水島港の物流機能強化

国際バルク戦略港湾事業によるインフラ整備と、港湾や航路における利用促進のための環境整備により、水島コンビナートを支える水島港の物流機能をハード・ソフト両面から向上させ、利便性を最大限に引き上げ、輸送効率を改善する。

#### ③ コンビナートの持続的発展

新規事業の円滑な展開や投資促進のための環境整備により企業のタイムリーな事業展開を支援し、今後の成長が期待できる環境・エネルギー関連素材・製品の研究開発から実証設備、量産設備に至る一連の機能を有するマザー工場化を実現し、アジアにおける水島コンビナートの成長力を維持する。また、水島コンビナート企業と県内企業、大学、行政が連携して共同研究開発等を進めることにより、県内産業全体の相乗的な成長・活性化を図る。

## (2) その他

上記に係る事業のうち、新たな規制の特例措置等に係るものについては、申請者からの提案をもとに国と地方の協議の場における協議の議題とし、関係府省は、その協議の結果を踏まえ、関係機関と調整を図りながら、必要な措置を講ずるものとする。

## 3. その他必要な事項

特になし。